

2022
Autumn
秋号
vol.250

暁学園報

AKATSUKI GAKUEN



暁学園公式キャラクター
アルベちゃん



理事長メッセージ
75周年記念式典

教職員物故者慰霊祭

Mentors

学園の取り組み
教育研究センター
起業家精神教育
言語技術教育

Topics

四日市大学 / 四日市看護医療大学
暁高等学校(3年制) / 暁中学校・高等学校(6年制)
暁小学校 / 暁幼稚園

健全な水の循環は いま？

暁学園 理事長

喜岡 渉



この夏は記録的猛暑が続いた後、記録的大雨・災害級大雨と続き、極端気象が一層顕在化しました。特に記録的大雨については異常な状態にあり、もはや異常と感じなくなるほど頻発し、8月25日現在、50水系の127河川で氾濫、土砂災害も194件発生しています。それでも全壊家屋12棟、半壊105棟と住家被害が比較的低く抑えられたこともあり、死者1人、行方不明者2人と、洪水時の逃げ遅れによる人的被害をゼロにするという国の水防基本方針の実現に少しは近づきつつあります。完全に実現するためには、堤防などの施設では防ぎきれない洪水は必ず発生するものと認識を改め、地域社会全体でこれに備えるという皆さんの水防意識の転換が必要です。

地球上の水は、海洋や河川・湖沼などの水として常に同じ場所に留まっているわけではなく、太陽から絶え間なく降り注ぐ放射エネルギーにより海水や地表の水が蒸発し雲となり、やがて降水となって地上に到達し、大部分の水は地表を流れて河川や湖沼に流入し海に戻るといった大きな

な循環の中で生きています。このような水の大きな循環は自然の中で繰り返されてきており、地球上に液体状の水が出現して以来、地球全体での水分子の物質量は不変とされています。その循環速度と水量は海や湖など水が存在する場所によって大きく異なりますが、いわば様々なギア比がうまくかみ合い、この絶妙なバランスにより我々は循環する水の一部を水資源として利用し続けて、水害とも何とか折り合いをつけてくることができました。

しかし、地球温暖化の影響を受けて蒸発量と降水量の変動幅がともに増えつつあり、地球全体の水量は変わらないものの水循環の速度は加速しています。健全な水循環が損なわれつつある今、災害級大雨のリスクに対して、ハード・ソフト両面からの「防護」対策のみならず、リスクの高い低地や土砂災害警戒区域などからの住家の「撤退」、遊水池に使われる水田の稲など農作物の品種改良や水害を受けない水上都市（メガフロート）の建設を含む「順応」についても総合的に取り組むことが必要になってきました。



暁学園創立75周年 記念式典 を挙行いたしました。

式次第

- 一、開式の辞
- 一、理事長挨拶
- 一、来賓祝辞 四日市市長
- 一、高校以下教職員代表挨拶
- 一、大学教職員代表挨拶
- 一、卒業生代表ビデオメッセージ
- 一、ミニコンサート
- 一、100年宣言
- 一、閉式の辞



喜岡渉 理事長



6月15日(水)、都ホテル四日市において、暁学園創立75周年記念式典が挙行されました。コロナ禍により、開催自体が1年遅くなり、残念でしたが、学生・生徒等の参加は見送り、学園関係者と教職員を中心とした式典になりました。

喜岡渉理事長の挨拶に始まり、来賓祝辞として、森智弘四日市市長からビデオメッセージを頂きました。次に、教職員を代表して、元高等学校校長の杉坂護理事と、四日市看護医療大学初代学長の河野啓子名誉学長から、学園での教員生活を振り返りながら、現任教員が引き継ぐべき学園人としての精神と教育観について示唆を頂きました。さらに、全学園卒業生の代表挨拶として、四日市大学OBの加藤貴義さんが駐在先のパリで収録したビデオメッセージが披露されました。加藤さんは四日市大学卒業後、京都大学大学院へ進学、英国留学を経て、経済協力開発機構(OECD)に入職し、現在、気候変動問題に取り組んでいます。四日市大学での深い学び、熱心な教員との出会いのおかげで、今の自分があるとの感謝の言葉に、会場からは大きな拍手が送られました。

75th Ceremony

75周年式典



杉坂護 理事



河野啓子 名誉学長



加藤貴義さん

その後、式典に華を添える芸術企画として、マリンバ奏者の前川礼奈さんと、医師の前川瑛亮さんご兄妹(両名とも幼・小・中高卒業生)と、ピアニストの岩永圭司さん(小・中高卒業生)によるミニコンサートが開催されました。パッフェルベル作曲の「カノン」、ロッシーニ作曲の「スイス軍の行進(ウィリアムテル序曲より)」など6曲の圧巻の演奏と軽妙なトークに、会場は魅了され、得も言われぬ一体感に包まれました。ラストは「暁学園歌」で締めくくられ、卒業生による品格あるパフォーマンスを一同が共有する中で、「人間たれ」の真髓を教職員が再確認し、学園の誇りと伝統の継承を誓う記念式典の趣旨に相応しい企画となりました。



マリンバ奏者・前川礼奈さん



ピアニスト・岩永圭司さん

次に、サプライズ企画として、音声テープに収録された故宗村南男第3代理事長のお言葉が会場に流れ、しばし全員が厳粛な雰囲気の中で静かに耳を傾けました。このテープは旧本部棟解体時に偶然、職員が発見したものです。高校男女共学化が復活した直後に、理事長自らが公立中学校校長対象の学校説明会で丁重に生徒募集への協力をお願いしている内容で、式典終了後には、「久々に南男理事長のお声が聞いてよかった。」「涙が出た。」と、教職員や関係者の感慨の声があがっていました。

最後は、来るべき百周年に学園を担う若手教員の代表として、高校、中高、小学校、幼稚園から8名が壇上に上がり、「100年宣言」を行いました。高校の長谷川恵理子先生が、「皆様と共に100周年を笑顔で迎えることができるよう、精一杯頑張りたい」と声高らかに誓い、盛大な拍手とともに式典を締めくくりました。



宗村南男第3代理事長



100年宣言

会場を移して催された祝賀会では、議会を終えた森市長も駆けつけてご参加いただきました。高校以下の各校園は半日授業として開催となった記念式典への、多くの皆様のご理解とご協力を改めて深く感謝申し上げます。

教職員 物故者 慰霊祭

75周年記念行事の一環として、6月18日(土)、四日市看護医療大学において、教職員物故者慰霊祭を行いました。コロナ禍を踏まえて、学園関係者と学園各校の学生・生徒・児童代表のみの出席となりました。

喜岡理事長による物故者名簿の献上の後、一同黙祷、理事長の追悼の辞に続き、出席者全員が献花を行いました。



先輩に
聞こう!

MENTORS

MENTOR(メンター)とは、「良き師・助言者」を意味します。今号は、暁中学校・高等学校卒業生で、オシム監督の通訳者としても有名なサッカー指導者、間瀬秀一氏からの寄稿です。



ませ しゅういち

間瀬 秀一 氏

Profile

暁中学校・高等学校 1992年卒
日本体育大学卒業後、アメリカなど海外5か国でプロサッカー選手として活躍。
引退後、ジェフユナイテッド市原・千葉でイビチャ・オシム監督の通訳者となり、数々のオシム語録を生み出す。
その後、2015年、ブラウブリッツ秋田の監督に就任、愛媛FCの監督などを経て、
2021年、モンゴル代表監督に就任。現在は愛知県でサッカー指導者として活動中。

小学校3年からサッカーを始め、小学校6年時には四日市の選抜メンバーに選ばれました。暁中高時は、サッカーに明け暮れる生活だったわけではありませんでしたが、練習方法なども自分たちで考えながら、中学校1年から高校3年までサッカーをやり通しました。この頃には、すでにプロになりたいという思いはありました。

高校3年の夏に、父親にブラジルへのサッカー留学を頼みましたが、まず大学に行き、先のことは大学卒業後に考えるようにいわれ、日本体育大学に入学しました。この入学した年にJリーグが発足しています。

中高時代のことでその後の人生に大いに役立ったのは、勉強の仕方を学んだことです。私は英語の授業が好きでしたが、その時はその後、いろいろな外国語を話すことになるとは考えていませんでした。今5か国語を話しますが、恩師である出口

先生の授業であったり、同級生から英語の勉強の仕方を教えてもらったことが、サッカー人生における外国語の習得に大いに役立っており、とても感謝しています。

日体大卒業後、アメリカに渡りました。今は仲介役となるエージェントがいますが、当時は自分でその国に行き、語学を覚え、自分でチームと交渉する形でした。以後メキシコ、グアテマラ、エルサルバドル、クロアチアの5か国で7年間プロとしてプレーしました。中高大と自分にはサッカーしかありませんでしたので、プロサッカー選手として人生をかけて、命をかけてやっていましたが、28歳で現役引退ということになりました。

引退後は、外国語ができ、サッカーがプロレベルで分かっていることもあり、Jリーグで外国人の通訳ができないかと思い、

winner's
mentality

キルギス戦勝利後のモンゴル代表(左から3人目が間瀬氏)

自分で履歴書を書いてJリーグのクラブに送りました。ジェフユナイテッド市原・千葉からイビチャ・オシムが来るタイミングで通訳としてのオファーがあり、3年間通訳をしました。このオシム監督との出会いが、私の人生を大きく変えました。オシムが来ただけで、選手が強くなり、チームが強くなる姿を目の当たりにして、Jリーグの監督になることが私の目標になりました。

オシム監督はサッカーと人生を結び付けて考えます。彼の考えでは、生活で起こることはサッカーで起こるし、サッカーで起こることは生活でも起こります。このような考え方ですから、生活の一部始終にチェックが入ります。車の運転や挨拶の仕方、トランプゲームのような遊びでも下手なことをすると怒られます。遊びでミスをする奴は、サッカーでもミスをするということです。

オシムの言葉で今もよく使われるものに「勝者のメンタリティ」という言葉があります。オシムが言ったのはボスニア語で「勝つ意識」といった意味でしたが、私がそれを「勝者のメンタリティ」と訳しました。オシムの言いたかったことは「勝つためには、勝者のメンタリティを持って」ということで、直訳では伝わらないオシムの真意を伝えることができたのではないかと、通訳者として心に残っている言葉です。

通訳者としての仕事を終え、2004年に私は10年後にJリーグの監督になるための計画を立てます。ファジャアノ岡山FCや東京ペルディでコーチをして指導者としての勉強もしながら、日本サッカー協会の

指導者ライセンスを4つ取得し、2015年にJリーグ、ブラウブリッツ秋田の監督に就任しました。

その後、愛媛FCの監督などを経て、2021年モンゴルの代表監督に就任しました。モンゴル代表監督として、当時モンゴルはFIFAランク195位でしたが、ワールドカップ予選において97位のキルギスに勝利しました。この勝利が、私のこれまでの人生で一番嬉しい勝利です。

病気のためモンゴルの監督は辞任しましたが、今はすっかり元気で、今生はサッカーの監督としてやっていこうと決心しています。サッカーの監督というのは、既に解任となった監督とこれから解任となる監督の2種類しかいない、とジョークになるくらい厳しい職業ではありますが、今は海外で監督をやることを見据えています。

最後に、暁学園の後輩たちに3つの言葉を贈ります。1つめは「挑戦」ということです。挑戦というのは自分の実力以上のことに挑んでいくということ、またはそのような環境に身を置くということで、私はオシムの通訳時代、慣れない仕事で毎日極度の緊張状態でしたが、それが自分の成長につながったとつくづく感じています。皆さんも、自分の実力以上のことに挑んでいって欲しいと思います。

2つめは「世界市民」ということです。私はこれまで7カ国で生活し、仕事もしてきたこともあり、世界市民というテーマでの講演依頼もあります。世界市民とは、あらゆる他人との垣根を越えて、相手の喜びと悲しみを知って、他者と協力できる人です。皆さんにも、ぜひそのような人になって欲しいと思います。これは暁学園の「人間たれ」にもつながる精神ではないでしょうか。

3つめは「自分らしさ」ということです。皆さんはまだ若いので自分らしさとは何かと考えている時期かもしれませんが、将来自分らしさを発揮できる仕事につき、自分らしさを発揮できる人間になって欲しいと思います。

大学教授や教育研究者が参画し、暁の新たな教育が始動!

大学や社会が求める学力は、大きく変わっています。従来の知識偏重型では対応できません。暁学園は、その理念を同じくする教育研究機関や大学教授とタッグを組んで、県下初、全国初の授業を展開し、大学での学び、社会のリーダーに必要な力を育成します。すべては、暁に集い、学び、子どもたちのために。本学の教育にご理解とご支援をお願いいたします。

「暁学園教育研究センター」 発足

NEW!

学内外の有識者と本学教員が
活動する教育研究集団

暁学園の教員の資質能力の向上及び教育内容・方法等の改善を図ることによって学園全体の教育力を高めることを目的として、令和4年7月、「暁学園教育研究センター」が設立されました。センター長には、小川東（おがわつかね）先生が就任し、7月下旬に第1回のセンター運営会議が開催され、今後の運営方針等が協議されました。

小川東 先生 略歴

学習院大学自然科学研究科(数学)博士後期課程中退。四日市大学に入職後、環境情報学部教授、教学部長、研究機構長等を歴任。令和2年、定年退職。令和3年、四日市大学名誉教授称号授与。現在、暁学園顧問、四日市大学研究機構関孝和数学研究所副所長、同生物学研究所研究員。博士(学術)。



中高

注目の「起業家精神教育」 プログラムを導入

NEW!

中高で慶應義塾大学SFC発の
起業家精神を学べる

課題解決力、論理力、創造力、チーム力を育成

中高では、慶應義塾大学SFC内に拠点を置いて、幅広い教育研究交流を行っている、一般財団法人SFCフォーラムの全面協力を得て、「起業家精神教育」プログラムを令和5年度より開始します。単独校でのプログラム実施は、全国初です(2022年9月現在)。起業家精神を題材に、生徒の課題解決力、創造力、チーム力を引き出し、新たな価値観、マインドセットを共有していくことが目標です。「起業家精神教育」は、文部科学省が小中高にも拡充する方針を今年度発表し、注目されています。

一般財団法人SFCフォーラムとは慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)の理念に基づき、経済界を担う人々と大学スタッフが時代の要請する新たな「知」の再編成と創造をめざすコミュニケーションの「場」としてSFCと同年の1990年に開設。「日本の若者にアントレプレナーシップを」という理念で、日本のアントレプレナーシップ教育を先導するセミナーやワークショップにおいても高い実績をあげています。

小学校

今年度より、

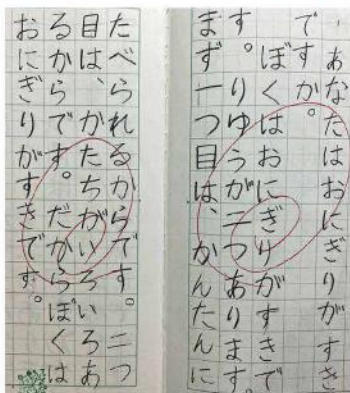
「言語技術教育」を導入

NEW!

東海エリアの小学校で初導入！
大手上市場企業が社員教育に採用する
実績ある知見

「言語技術」とは、思考を論理的に組み立て、相手が理解できるように分かりやすく表現する力のことです。全ての学びの基礎となる技術であるとともに、国際社会で日本人が堂々と自己主張していくうえでも必須のスキルとされています。しかしながら、先進国での「言語技術教育」を行っていないのは、日本だけと言っても過言ではない状況が続いています。

暁小学校では、東海エリアの小学校としては初となる「言語技術教育」のプログラムを令和4年度から導入しています。人前で話す能力や議論の能力、巧みに文章を書く能力は、持って生まれた才能ではなく、トレーニングによって誰でも身に付けることができます。本校では、早期にトレーニングを開始することで、子どもの発達に合わせながら、系統的、段階的に「聞く・話す・読む・書く」の「言語の四機能」を鍛錬します。



本校では、2年生から5年生までの4年間、「ことば」という名称で言語技術教育に取り組んでいきます。本年度は取り組みの初年度ですので2年生だけの授業ですが、これからの4年間で2年生から5年生までのカリキュラムが完成していく予定です。授業は週1回、1時間です。言語技術に関して先進的な取り組みを進めている「つくば言語技術教育研究所」が発行するテキスト『言葉のワークブック』やオリジナル教材を組み合わせ、授業を進めています。まだまだ始まったばかりの取り組みですが、2年生の子ども達でも主語・述語がきちんと整った論理的な発表ができつつあります。

四日市大学

四日市大学と菰野町との 包括連携協定の締結

8月10日(水)、菰野町庁舎にて同町から柴田孝之町長他、町幹部の方、本学から岩崎恭典学長他、役職者が参加して包括連携協定が締結されました。

本協定は、本学と菰野町が有する人的・知的・物的資源を活用し、幅広い分野で連携及び協力することにより、地域を担う人材育成と新たな価値の創造による地域社会の発展に寄与することを目的としています。

締結式は、柴田町長と岩崎学長それぞれが、協定書に署名し、柴田町長からは町の発展に寄与するために大学の専門的な知見を町に取り込んでいきたいとの意欲が示され、岩崎学長からは町をフィールドに学生たちの学ぶ場を広げていきたいと応じられました。

今後、記念講座を予定しています。



署名を終えて記念撮影に応じる柴田町長(左)と岩崎学長(右)



署名する菰野町の柴田町長(手前)と四日市大学の岩崎学長(奥)



留学生新入生歓迎交流会

6月10日(金)、留学生新入生歓迎交流会(ボウリング大会)を、朝日町のアソビックスあさひにて3年ぶりに開催しました。当日は、留学生支援委員の先生と留学生会役員を中心とした先輩学生が新入生を歓迎し、約50名が参加して交流を深めました。

初めてボウリングをする留学生も多く、投げ方に戸惑ったり、ガーターだったり、日本でのボウリング初体験に悪戦苦闘する姿も多く見られました。

ゲーム終了後は、表彰式が行われ、名前が呼ばれるたびに一喜一憂する姿もあり、ボウリングを大いに楽しみ、新しい友人も出来たようでした。新入生がこの日の出会いを貴重な機会とし、充実した4年間を送ることができるよう願っています。



四日市看護医療大学

臨床検査学科1期生、 決意を新たに「臨地実習」に臨む

臨床検査学科 学科長

高崎 昭彦

5月13日(金)に臨床検査学科1期生が「臨地実習宣誓式」に参加しました。学長先生より「責任」の意味が込められた新しい名札が1人1人に授与され、「命の尊さ」をろうそくの灯に託し、全員で新たな誓いを述べました。「よき医療人」に必要なものをこのセレモニーを通じて、感じてくれたことと思います。来年臨地実習を控える2年生も参加し、頼もしい先輩たちの姿、新たな誓いを目に焼き付けていました。2年生からはサプライズで3年生全員に一輪の花を手渡していたのが印象的でした。



この模様はCTYのケーブルNewsでも放映され、父母等の皆様へのライブ配信も行いました。1期生には決意を新たに有意義な臨地実習を送っていただくことを願っています。



学友会親睦運動会

8月5日(金)、学友会主催の親睦運動会を行いました。8月ということで、企画の段階から熱中症への対策も考慮しながら、何度もプログラムを考え直し、念願の開催となりました。

当日は、アイスブレイクと障害物競争を体育館で、ビンゴ大会は教室で行いました。最初はチーム同士もぎこちない感じでしたが、ビンゴ大会が始まる頃には全員楽しそうな表情が見られました。最後の表彰式では、優勝者チームの発表と各チームから1人ずつMVP



を発表し、全員笑顔で会を終えました。

学友会の会長からは、「まだまだ制限もありますが、少しずつこのようなイベントを開催していきたい」と、今後の活動について前向きな様子が見受けられました。

暁高等学校 (3年制)

進路探究「暁高校 ようこそ先輩」

～多様な方面で活躍している先輩から課題発見のきっかけを得る～

6月4日(土)、2学年対象の講演会「暁高校 課題発見(ようこそ先輩)」が、社会人の卒業生を招いて実施されました。今回は、エンターテインメント・教育・サービス・行政といった業種の異なる4分野での講演で、高校生だった頃の学習・部活などへの取り組みや、当時の考え方がいかに自分の生き方や仕事に繋がっているか、という内容でした。

「勉強に対して良いイメージがないですが、将来的に使わなくても考えることに意味があると聞いて、とても共感しました」「自分はまだ夢がなくてやりたいことも決まっていなくても、探してみてもそれに向かって努力することが大切なんだから、沢山聞いて、自分も頑張っていかなきゃいけないなと思いました」などの感想が聞かれました。高校時代の学びの大切さを改めて意識する機会となりました。



第50回 陸上競技会実施

～心身を鍛え、クラスの団結をはかり、最後まで競技する精神を養う～

6月1日(水)、コロナ対策のため半日での開催となりましたが、今年も中央緑地競技場にて陸上競技会を行うことができました。会場に入った後、生徒たちはさっそく各クラスで制作したTシャツへ着替え、メインスタンドを様々なシャツの花が彩りました。競技会ではトラック種目・フィールド種目が行われ、スタンドからは汗を流すクラスメイトに向けて大きな拍手がよせられました。また、クラスTシャツデザイングループも行われました。

「クラスのあまり話したことの無い子と話すことが出来てよかったです。またクラスの子をみんなで応援するのも楽しかったです」「去年に引き続き、まず開催することができたこと自体とても嬉しかったです」「大玉転がしがおもしろくてよかったです!!」などの感想が聞かれました。



暁中学校・高等学校 (6年制)

いざ北の大地へ

～5年生 北海道修学旅行～

7月10日(日)から14日(木)まで4泊5日の日程で、5年生が北海道修学旅行に行きました。

ウポイ民族共生象徴空間ではアイヌの歴史や文化の魅力に触れ、富良野での満開に咲き誇るラベンダー畑、サホロリゾートでの体験学習(ラフティング、マウンテンバイクなどのアクティビティ)では北海道の豊かな自然を肌で体感し、小樽や札幌での班別分散学習では、観光名所を巡りつつ、北海道ならではの「食」を堪能しました。

さらに赤平市にある植松電機では、各々がモデルロケットを製作し、打ち上げを体験しました。植松努(つとむ)社長からご講演



いただき、進路や生き方全般に関わる話に生徒全員が真剣な眼差しで聴き入っていました。北の大地で一生涯忘れることができない修学旅行を無事に終えることができました。



中学夏季宿泊研修

■7/28(木)～7/30(土)、中学1年生は2泊3日の「乗鞍自然研修」に参加しました。星空観察、オリエンテーリング、カレー作り、キャンプファイヤー。天候に恵まれ、全てのプログラムを予定通り実施することができました。雄大な自然に囲まれて、同級生との親睦をさらに深めることができました。

■8/25(木)、26(金)の両日、中学2年生は1泊2日の「広島平和研修」に参加しました。平和資料館や慰霊碑を見学し、平和講演を聞くなかで戦争の悲惨さ、命の尊さに



ついて思いを巡らし、生徒一人ひとりが平和の祈りを胸に帰宅の途につきました。

暁小学校

5年生 林間学校

8月25日(木)、26日(金)に5年生の林間学校が実施されました。コロナ禍により、一昨年は中止、昨年は日帰りのみでの実施でしたが、今年度は1泊2日の日程で実施することが出来ました。

御在所登山では、四日市西警察署と東芝山岳会の方に補助して頂き、安心して登ることが出来ました。頂上は残念ながらガスがかかり景色は見えなかったものの、子ども達は達成感を味わうことができたようです。2日目は、三重森林インストラクター協会の先生方と共に森の中を探索したり、間伐材を用いた木のスプーン作りに挑戦したりと充実した時間を過ごすことが出来ました。

感染対策を施しながらの活動ではありませんでしたが、子ども達には思い出に残る林間学校となった事でしょう。



4年生 社会見学

6月29日(水)に4年生は社会見学のため、「四日市市クリーンセンター」と「北部浄化センター」に出かけました。

午前中に訪れた「四日市市クリーンセンター」では係の方から説明を受けた後、燃焼ゴミピットやゴミを燃焼させている炉室などを見学しました。「ゴミクレーン」の大きさに驚く声が聞かれました。午後は、下水処理施設である「北部浄化センター」を訪れました。広大な浄化施設を見学したり、汚水が浄化される仕組みなどについて



学習したりしました。

今回訪れた施設は、我々が生活していくために欠かす事が出来ない施設です。教室を出て、本物の施設を見学することにより、教室で学習した内容について、より「深い学び」となる機会となったと思います。

暁幼稚園

泥んこ遊び

～3年ぶりに復活～

コロナ禍の中、ずっとお預けになっていた泥んこ遊び、今年度やっということができました。

暁幼稚園では、五感を通して子どもたちに様々な遊びを思いきり経験させ、発見したこと、驚いたこと、感じたことなどを自分なりの言葉で表現することを大切にしています。

泥んこ遊びは、年長組が田植えをする前の田んぼの黒土を使って行います。今年は、3年ぶりに行ったので、年長組の子どもたちも初めての体験でした。はじめは、土の中に足を入れることをためらっていた子どもたちも、先生と手をつないで入ってみると、「土がヌルヌルしてる」「足が重たくて走れない」「足が抜けないよ」「お団子が固まらない」「土が冷たい」・・・



などと、感じたことを口々に声に出して、目の細かい黒土の感触を楽しんでいました。残念ながら、年少組は天候の都合で行うことができませんでした。来年の泥んこ遊びを楽しみにしていきましょう。



避難訓練

～自分の命は自分で守る～

大地震が発生した後、津波警報が発令されたという想定で、今年度2回目の訓練を行いました。

はじめに緊急地震速報で地震が来ることを知らせました。子どもたちは、素早く園庭に出て「だんご虫ポーズ」で地震が収まるのを待ちました。その後、津波が来ることを想定して、富洲原中学校の屋上で避難しました。中学校の外階段は、園児にとって少々段差が大きいのではないかと心配しましたが、年長組、年中組はもちろんのこと、年少組や満3歳児のよつ



ば組の子どもたちも、手すりを持ちながら自分の力で屋上まで上ることができました。

前回は行った訓練では、緊急地震速報に驚いて泣き出してしまいうちもいましたが、今回の訓練では全員最後まで落ち着いて行動することができました。小さい頃から「自分の命は自分で守る」ことを繰り返し指導していくことが大切だと改めて感じさせられました。



オープンキャンパス・入試説明会

(詳細は各校HP等参照)

暁高等学校(3年制)

入試問題解説会 11/12(土)

暁中学校・高等学校(6年制)

中学校入試問題解説会 10/23(日)
高校説明会・入試問題解説会 11/3(木・祝)
中学校個別相談会& School Tour 11/5(土)・11/19(土)

暁幼稚園

体験説明会(1歳児) 10/31(月)・11/1(火)
体験説明会(満3歳児・2歳児) 11/2(水)・11/4(金)

入学試験

(詳細は各校HP等参照)

四日市大学(全学部共通)

公募制推薦A日程 出願期間:11/1(火)~11/9(水) 試験日:11/12(土)
指定校制推薦 出願期間:11/1(火)~11/8(火) 試験日:11/12(土)
クラブ推薦A日程 出願期間:11/1(火)~11/9(水) 試験日:11/19(土)

四日市看護医療大学

学校推薦型選抜 出願期間:11/1(火)~11/14(月) 試験日:A方式 11/19(土) B方式 11/20(日)
育成会奨学生 出願期間:11/1(火)~11/14(月) 試験日:11/20(日)
選抜前期日程
社会人等特別選抜 出願期間:11/1(火)~11/14(月) 試験日:11/19(土)

暁小学校

出願期間:10/17(月)~10/27(木)
入学検定 親子面接:10/29(土)または10/30(日)
入学考査:11/6(日)

